

2024年12月期（第119期） 第2四半期（中間期）業績概要

2024年8月8日
日東精工株式会社
(証券コード 東証プライム:5957)



2024年3月
健康経営優良法人
(ホワイト500)
4年連続認定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

単位：百万円／％	2023/12 第2四半期		2024/12 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	22,447	100.0	22,394	100.0	△ 52	△ 0.2
売上総利益	5,117	22.8	5,358	23.9	241	4.7
販売管理費	3,818	17.0	3,864	17.3	45	1.2
営業利益	1,298	5.8	1,494	6.7	195	15.1
経常利益	1,476	6.6	1,610	7.2	133	9.0
税金等調整前当期純利益	1,494	6.7	1,597	7.1	102	6.8
親会社株主に帰属する当期純利益	833	3.7	1,007	4.5	173	20.8
一株当たり当期純利益（円）	22.57		27.56			

決算のポイント

売上高

- 制御事業のエネルギー関連向け分析計測機器が好調であること、欧州拠点を2023年4月に設立したことに加え、価格転嫁の効果が反映されつつある。一方、ファスナー事業の巣ごもり需要の落ち着きによるゲーム機向け製品の売上減、産機事業の米国・タイの自動車向けねじ締め機の需要減の影響で総合的には横ばいとなり、前年同期比0.2%の減収。

営業利益

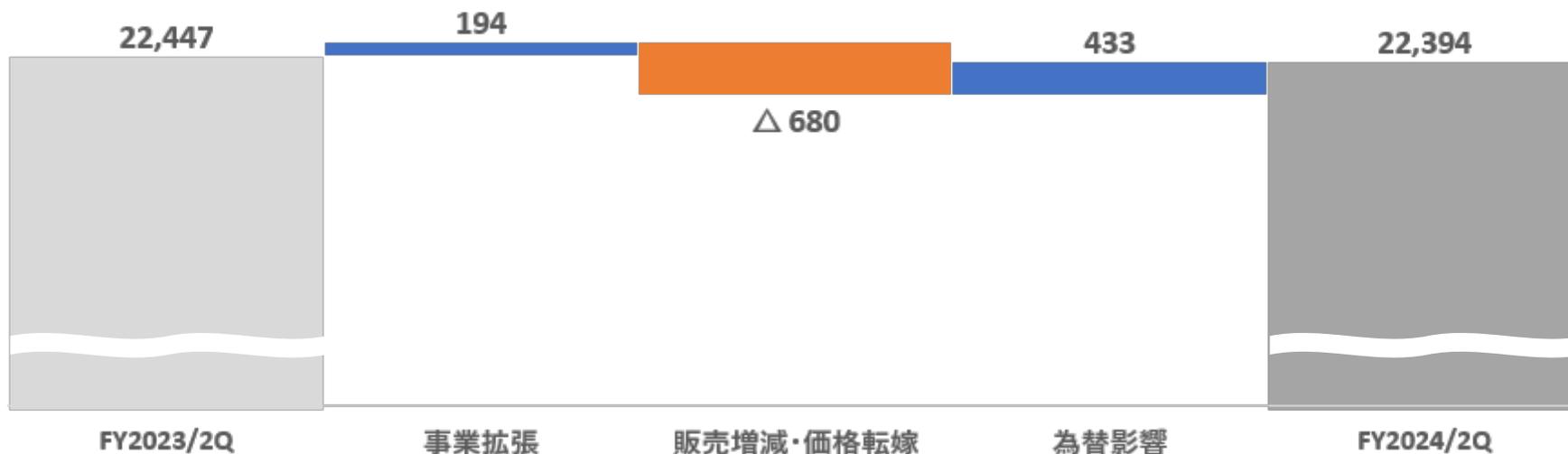
- 利益面では、自動ねじ締め機を中心に価格転嫁が進んだこと、高付加価値の分析機器の出荷が進んだことから、前年同期比15.1%の増益。

海外

- 海外は、中国の自動車業界向けファスナー製品が堅調だったほか、欧州拠点での分析機器の販売も好調に推移し、売上高は増加。

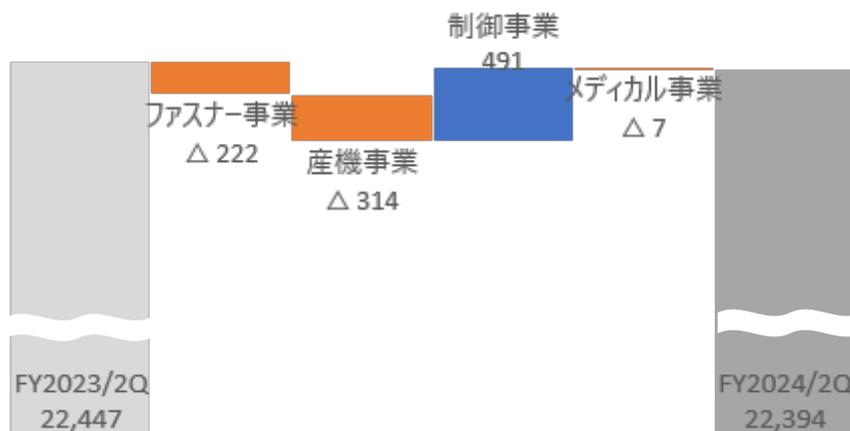
増減要因

（百万円）



セグメント別

（百万円）



事業拡張

2023年に開設した日東精工アナリテックヨーロッパが貢献。

販売増減

分析計測機器が好調だったものの、米国・タイの設備投資の落ち込み、巣ごもり需要の落ち着きによるゲーム機向け製品減の影響で減少。

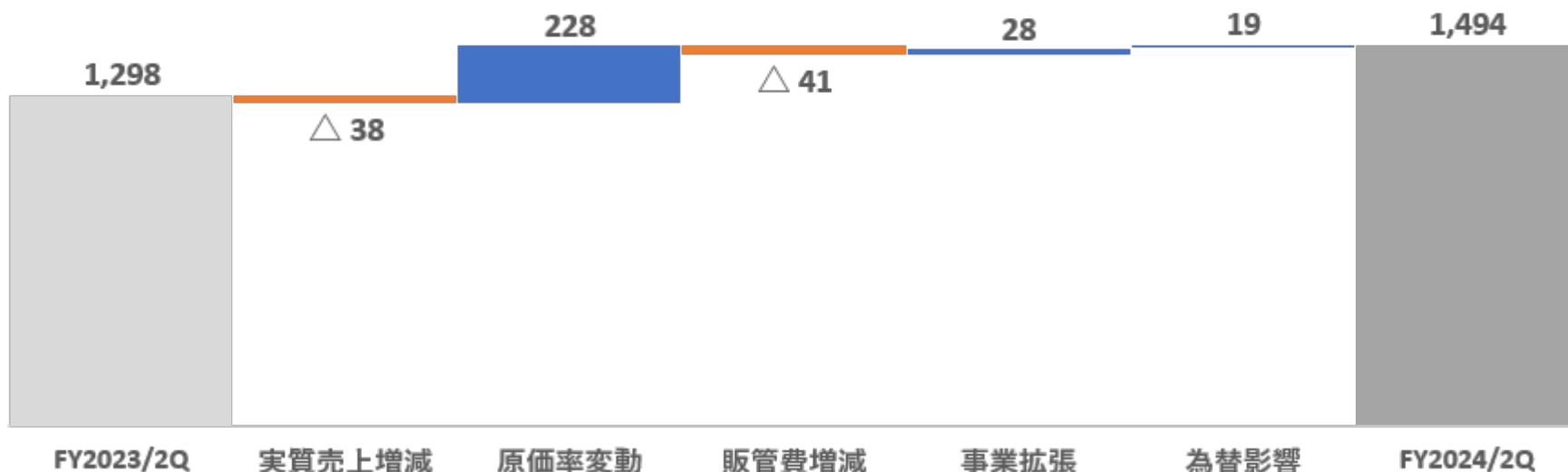
価格転嫁

ねじ締め機関連の価格転嫁が進んだ。その他は引き続き交渉中。

セグメント別営業利益（連結）

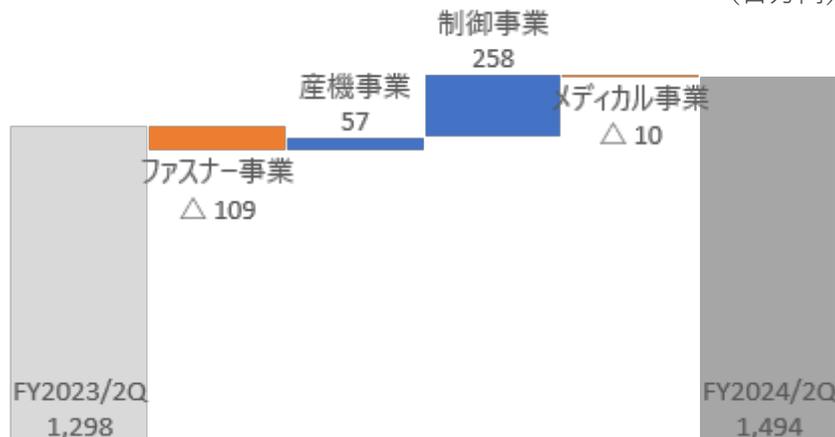
増減要因

(百万円)



セグメント別

(百万円)



原価率
変動要因

ねじ締め機関連の価格転嫁の効果が表れ原価率が改善。また、高付加価値の分析機器の出荷が進んだことも寄与。

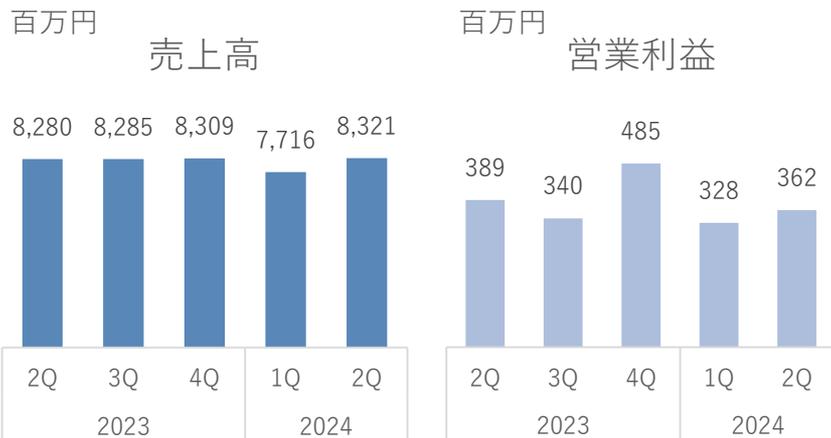
販管費
変動要因

賃上げにより労務費が前年比約3.3%（約57百万円）増加。

事業拡張

2023年に開設した日東精工アナリティックヨーロッパが貢献。

セグメント別業績概要～ファスナー事業



概況

- 売上高は、主力の自動車は好調だったものの、ゲーム機市場の需要の落ち着き、建設業界の人手不足・資材高騰による着工伸び悩みの影響で、前年同期比で減収。
- 営業利益は、材料費・エネルギー費の販売価格への転嫁を進めるも十分な反映には至らず前年同期比で減益。
- 製造工場の集約による効率化・原価低減を推進中。

業界別コメント

◆自動車

- 東南アジアを中心にコロナ禍の影響による顧客の在庫調整の余波はあるものの、CASE・EV向けに、オリジナル品のゆるみ止めねじ「ギザタイト」、座金組み込みねじ「アスファ」、締結粉飛散防止ねじ「CPグリップ」、「精密プレス製品」が好調。軽量化・薄板化の締結に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」も高い評価。

◆住宅・建築

- 国内の需要はあるものの、業界の人材不足・資材高騰により着工が伸び悩み前年同期比減。2月に、ばね座金、平座金を不要にできる新製品、フランジ型ゆるみ止めボルト「カップボルト」を販売開始し現在拡販中。

◆電機・電子部品

- 欧州、中国での消費低迷、東南アジアでの日系家電メーカー低迷によりやや低調に推移。

◆雑貨

- 巣ごもり需要で盛り上がったゲーム機市場が落ち着き、精密ねじの売上が減少。

◆IT・情報機器

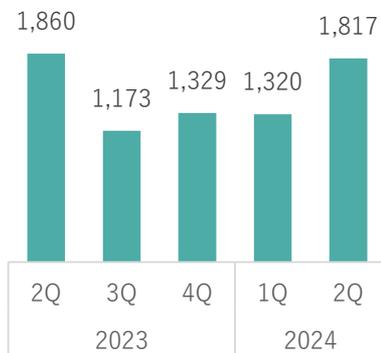
- 中国、マレーシアでOA機器向けが増加。

単位：百万円／％	2023/12	2024/12	前年同期比	
	2Q	2Q	金額	増減率
売上高	16,260	16,038	△ 222	△ 1.4
自動車	6,146	6,356	209	3.4
住宅・建築	3,690	3,525	△ 165	△ 4.5
電機・電子部品	2,386	2,324	△ 62	△ 2.6
雑貨	1,243	882	△ 360	△ 29.0
IT・情報機器	626	776	149	23.8
精密機器	535	583	48	9.0
医療	142	153	11	7.7
その他	1,488	1,436	△ 52	△ 3.5
営業利益	800	690	△ 109	△ 13.7

セグメント別業績概要～産機事業

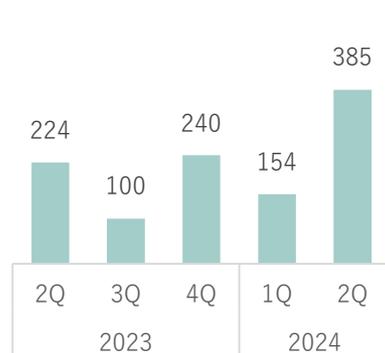
百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- 売上高は、電動化需要、人手不足を背景にした自動化機運が高まるも、米国・タイで景気の後退、政治的要因により設備投資意欲が停滞し、前年同期比で減収。
- 営業利益は、ねじ締め機において価格転嫁が進み原価率が改善した影響で、前年同期比で増益。

業界別コメント

◆自動車

- 国内においてはCASE関連のねじ締め機の受注、新車種向け設備の受注は増えつつあるものの、米国・タイで設備投資意欲が停滞し低調に推移。

◆電機・電子部品

- 昨年の基板表面処理装置ならびに家電用ねじ締め標準機の大型受注の反動を受け、前年同期比では減。

◆エネルギー

- スマートメータ、電力計向け設備の更新需要があり増加。

◆遊技機

- 昨年の大型設備受注の反動で減少。

◆IT・情報機器

- 昨年の韓国携帯電話向け受注の反動で減少。

◆その他

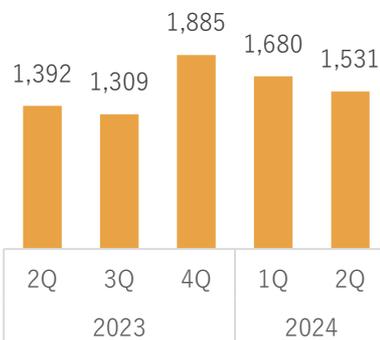
- 汎用エンジン用設備の大型案件、工業用ポンプ用設備、家具組立用設備の受注があり増加。

単位：百万円/%	2023/12	2024/12	前年同期比	
	2Q	2Q	金額	増減率
売上高	3,453	3,138	△ 314	△ 9.1
自動車	1,825	1,477	△ 348	△ 19.1
電機・電子部品	711	499	△ 211	△ 29.7
エネルギー関連	99	135	36	36.3
遊技機	206	110	△ 95	△ 46.0
IT・情報機器	139	83	△ 55	△ 39.5
住宅・建築	103	83	△ 20	△ 19.2
雑貨	10	61	50	488.9
その他	356	686	329	92.2
営業利益	481	539	57	12.0

セグメント別業績概要～制御事業

百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- エネルギー関連を中心に分析装置が好調。欧州新拠点での販売も好調に推移し、前年同期比で増収増益。
- 新製品開発に加え、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。

業界別コメント

◆エネルギー

- 1Qに硫黄分析装置の大型受注があり増加。石油精製向け更新需要も堅調。

◆化学・薬品

- 欧州新拠点での分析装置の販売が堅調に推移。商流見直しにより中国子会社での販売を開始し、販路を拡大中。

◆環境

- 欧州のPFAS規制による有機フッ素の分析需要に3月販売開始した新製品「自動試料燃焼装置 AOF/AQF-5000H」が対応し大幅増。環境配慮製品への関心からマイクロバブルへの問い合わせ増加中。

◆自動車

- 部品検査装置MISTOLの大型受注も含め大幅に需要増加。また、電池材料など抵抗率計の需要が増加。

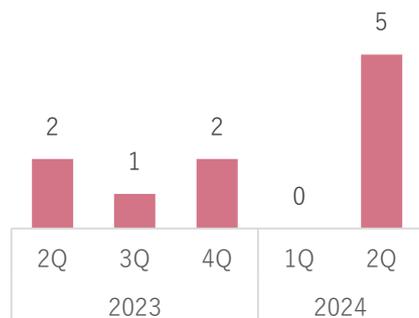
◆住宅・建築

- 地盤調査機「ジオカルテIV」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。

単位：百万円／％	2023/12	2024/12	前年同期比	
	2Q	2Q	金額	増減率
売上高	2,720	3,212	491	18.1
エネルギー関連	439	682	243	55.4
化学・薬品	632	637	5	0.8
環境	106	348	242	228.7
自動車	143	228	84	59.0
電機・電子部品	170	188	17	10.6
造船	164	178	14	8.9
住宅・建築	256	162	△ 93	△ 36.5
医療	67	60	△ 6	△ 9.9
食品	31	60	28	89.0
その他	708	663	△ 45	△ 6.4
営業利益	69	328	258	369.6

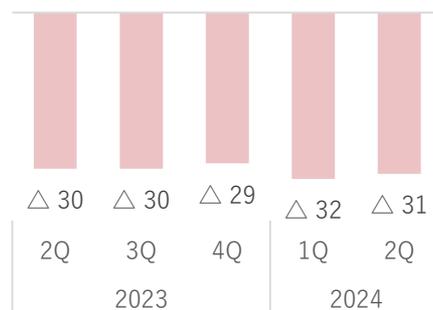
百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後とも販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 医療機器向け酸素濃縮器はコロナ禍の終息に伴い販売不振。ヘルスケア向けなど既存の医療業界以外の市場ニーズに応えるべく、拡充を図る。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、2023年の国内特許取得に続き、2024年7月に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。現在は一貫製造設備の整備、非臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進めるとともに、医療用製品販売に向けた許認可取得の準備、品質管理体制の構築など、上市に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動し継続中。医療機器の拡充を図る。

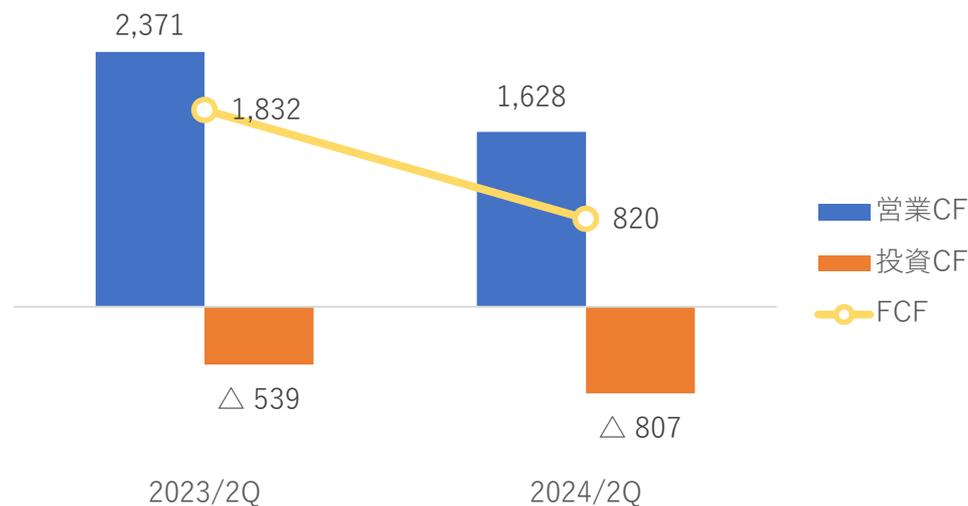
単位：百万円／％	2023/12	2024/12	前年同期比	
	2Q	2Q		
	金額	金額	金額	増減率
売上高	13	5	Δ 7	Δ 55.4
医療	13	5	Δ 7	Δ 55.4
その他	—	—	—	—
営業利益	Δ 52	Δ 63	Δ 10	—

連結貸借対照表

単位：百万円／％	FY2023/4Q		FY2024/2Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	33,822	63.4	35,292	64.5	1,470	4.3
現金及び預金	8,849	16.6	9,615	17.6	766	8.7
受取手形・電子記録債権/売掛金	12,794	24.0	12,914	23.6	120	0.9
棚卸資産	11,023	20.7	11,435	20.9	411	3.7
固定資産合計	19,521	36.6	19,409	35.5	△ 111	△ 0.6
有形固定資産	14,129	26.5	14,225	26.0	95	0.7
無形固定資産	999	1.9	940	1.7	△ 59	△ 6.0
投資その他の資産	4,391	8.2	4,244	7.8	△ 147	△ 3.4
資産合計	53,344	100.0	54,702	100.0	1,358	2.5
負債の部						
流動負債合計	12,901	24.2	13,082	23.9	180	1.4
支払手形・電子記録債務/買掛金	8,615	16.2	8,474	15.5	△ 141	△ 1.6
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	1,574	3.0	1,530	2.8	△ 43	△ 2.8
固定負債合計	4,040	7.6	3,749	6.9	△ 290	△ 7.2
負債合計	16,941	31.8	16,831	30.8	△ 110	△ 0.7
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.4	－	－
資本・利益剰余金	29,400	55.1	30,072	55.0	671	2.3
自己株式	△ 1,562	△ 2.9	△ 1,562	△ 2.8	0	－
純資産合計	36,402	68.2	37,871	69.2	1,468	4.0

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円／％	FY2023/2Q	FY2024/2Q		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	2,371	1,628	△ 743	△ 31.4
投資活動によるCF ※②	△ 539	△ 807	△ 267	-
(フリーCF) ※①+②	1,832	820	△ 1,011	△ 55.2
財務活動によるCF	△ 1,105	△ 482	622	-
現金及び現金同等物の増減額	556	557	0	0.1
現金及び現金同等物の期首残高	8,305	8,027	△ 278	△ 3.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,862	8,584	△ 278	△ 3.1

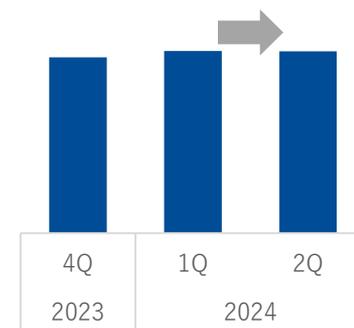


2. 2024年12月期(第119期)業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／％	FY2023		FY2024（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,744	100.0	48,200	100.0	3,455	7.7
営業利益	2,614	5.8	3,300	6.8	685	26.2
経常利益	2,835	6.3	3,500	7.3	664	23.4
親会社株主に帰属する当期純利益	1,734	3.9	2,100	4.4	365	21.1
一株当たり当期純利益（円）	46.95		57.46			

注残の推移



予想のポイント

売上高

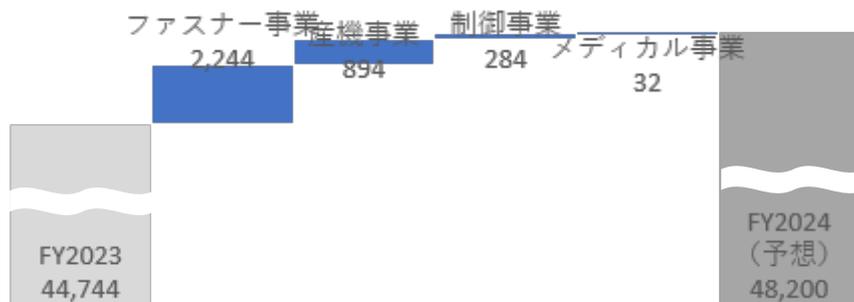
- 今期前半は、在庫調整や主要国の経済成長の鈍化、地政学リスクによる受注の伸び悩みもあったが、在庫過多の解消がやや進み、これまで難航していた価格転嫁も徐々に進みつつある。設備投資意欲も自動車業界を中心に回復基調にあり、今期後半からはグループ全体での回復が予想される。特に自動車業界、雑貨、エネルギー関連での需要を見込む。

営業利益

- ねじ締め機関連の価格転嫁の効果が表れる見通し。加えて、ファスナー工場の集約、価格転嫁が未完である製品の交渉の継続、部材の見直し、加工部品の内製化などにより、引き続き収益改善を推進中。

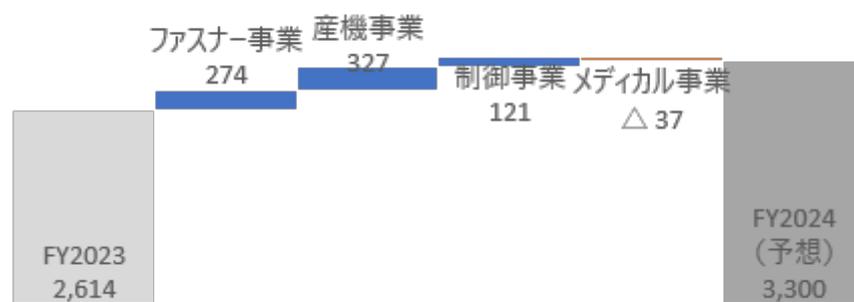
(百万円)

セグメント別売上高増減



(百万円)

セグメント別営業利益増減



セグメント別市場動向と取り組み状況

事業	主な市場動向		取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	EV化を背景に車両の軽量化、薄板化ニーズが高まり引き合い増。一方、メーカー品質問題の影響で受注は期首想定より伸びず。	自動車向けに「AKROSE」、「JOI STUD」シリーズ、住宅・建築向けに座金不要の新製品「カップボルト」の拡販を進める。材料費コストの上昇を受け、製品価格の値上げを実施中。また、工場再編をはじめとする製造コストの削減に取り組む。	
	住宅・建築	業界は人材不足・資材高騰が続くが国内の大型建築需要はあり。		
	雑貨	落ち着きを見せていたゲーム機市場の上昇に期待。		
産機	自動車	CASE関連のねじ締め機、新車種向け設備の受注が回復基調。	標準機の安定受注と並行して、特殊機の受注残が増加。自動車以外で実績豊富な電力計の特殊機案件の受注に向け、生産能力拡大のための新たな協力工場の開拓も検討中。また、新製品の開発に加え、部材や梱包資材の見直し、仕入れ価格のみえる化などのコスト削減を進める。	
	電機・電子	中国リスクと円安の影響により国内生産回帰。半導体業界の回復により得意とする半導体検査装置の受注が回復基調。		
	エネルギー関連	新電力計の設備、スマートメータの設備導入が進む見込み。		
制御	エネルギー関連	脱炭素による需要減の一方、SAF等再生燃料、合成燃料などの需要を見込む。	電子材料やPFAS関連需要向けに新製品「自動試料燃焼装置 AOF/AQF-5000H」の拡販を進める。省人化、自動化ニーズの高まりに伴う検査機関連の引き合い急増に対応予定。加えて、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。	
	化学・薬品	LIBを含む次世代電池材料向け需要を見込む。		
	環境	欧州、米国でPFASの法規制により分析装置の需要を見込む。		
カルメデイ	開発計画	7月の米国を皮切りに、「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。本製品の製造設備の整備並びに非臨床試験に取り組むとともに、臨床試験の準備にも取り組み、医療機器製品の拡販や新製品の開発に努める。		